

発生から50年 犠牲者60名の大災害

昭和47年7月5日 繁藤大崩壊



災害の概要

発生日時：昭和47年7月5日 10時50分ごろ
 発生場所：香美市土佐山田町繁藤（繁藤駅北側斜面）
 崩壊規模：幅約200m、高さ約100m、土量10万m³
 被害状況：死者60名、負傷者8名、被災人家11戸
 最大時間雨量：95.5mm（7月5日 5時～6時）
 連続雨量：782.5mm（7月4日 0時～7月5日 11時）

災害の特徴

現在でいうところの線状降水帯による豪雨

- ・ 時間雨量90mmを超える**猛烈な雨**が続いた。
- ・ 降り始めからの総雨量は780mmを超える**記録的な大雨**となった。

降雨が小康状態となった時に大崩壊が発生

- ・ 大崩壊の前に予兆となる**小崩壊が数回発生**した。
- ・ それまでの大雨により**多量の水を含んだ山肌**が広範囲にわたり**一気に崩壊**した。

繁藤災害の発生場所

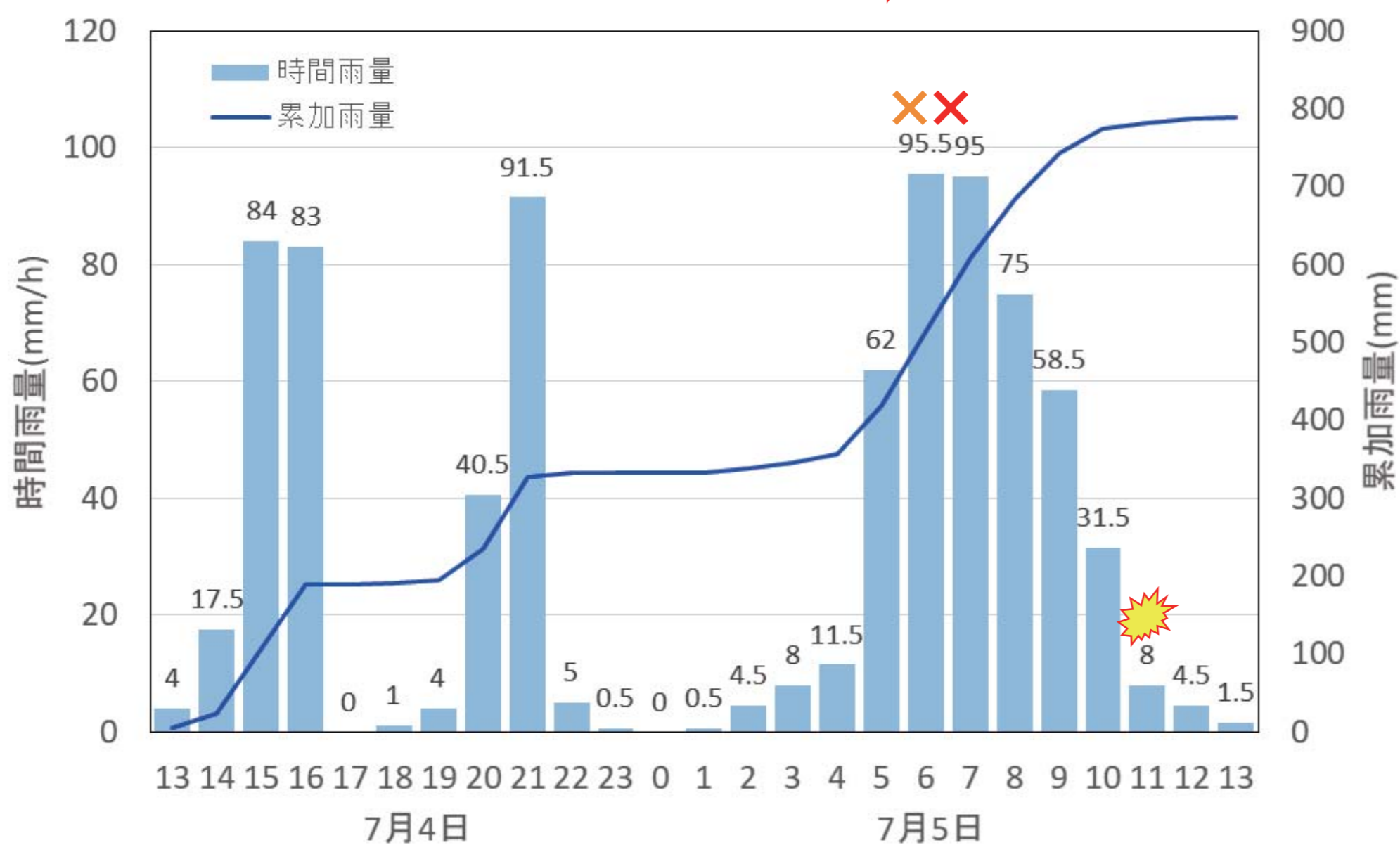


崩壊箇所の近景



繁藤地区の災害時の雨量グラフ

- × 1回目の土砂崩れ
- ×× 2, 3回目の土砂崩れ
- ☀ 4回目の土砂崩れ、大崩壊



崩壊は一度きりとは限りません。さらに、大雨が降り止んだ後でも崩壊は発生します。

雨が止んでも、しばらくの間は土砂災害に警戒することが大切です。

いつもと違う雨だと感じたら、土砂災害警戒情報や市町村からの避難指示といった防災情報のほか、周辺の状況に異常がないか十分に確認するなど、**ご自身の命を守るための最善の行動を心掛けましょう。**

